

ZSSSK

生活科・総合教育だより

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会報

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局 東京都大田区立松仙小学校

〒145-0085 東京都大田区久が原 1-11-1

TEL 03-3753-9141

発行人 齊藤 純

編集人 長谷川 かほる

次期学習指導要領の核となる生活科・総合的な学習の時間

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

会長 齊藤 純

(東京都大田区立松仙小学校長)

平成28年度第1回全国理事会が、7月1日(金)にホテル東京ガーデンパレス(東京都文京区)において開催されました。当日の理事会には、船田顧問、井出顧問、茂木顧問、相川顧問を始めとして、北は北海道、南は熊本まで、全国から30名程の理事の皆様がお集まりくださり、平成27年度の主な事業案、決算をご承認いただき、併せて、28年度の事業案、予算案、役員案の承認とともに、全国大会及び各ブロックでの研究会開催の情報等を提供してくださいました。また、昨年大成功を収めた香川大会実行委員長であった川中祥照先生も香川県理事として駆け付けてくださり、ご挨拶をいただきました。懐かしさと同時に、昨年のご苦労が思い出されました。また、今年度全国大会開催(11月4日、5日)の青森県理事の中村泰子先生が最終案内をもとに、大会2日目に新しく課題別分科会2として、山形大学の野口先生をコーディネーターとして、青森、山形、秋田、岩手の先生方によるこれからの生活・総合的な学習の時間についてのご発表をされるということで、「チーム東北」を強く印象づける青森大会開催への熱い思いを語ってくださいました。さらに、来年度全国大会開催の神奈川県理事の新倉邦子先生は、授業公開校3校は全て横浜市の老舗の小学校だが、大会は「オール神奈川」であることを強調され、大会1日目の全体会閉会后にフェスタと命名された神奈川県及び横浜市の多様な実践をポスターセッション等で紹介する新しい取組にも挑戦されることをご提案されました。充実した大会になることを予感させました。さらに、30年度に全国大会を開催する石川県の小澤雅人理事も、すでに準備が始まっていることを語られました。特に印象的だったのは、熊本県の理事である森江一史先生が、4月に起きた想定外の大地震で大きな被害を受けた熊本県において、今年度の九州ブロック大会(10月14日)を行うことを熱く語られました。災害からの復興もまだ十分になされていない中、心の傷も十分に癒えていない中、子供たちが生き生きと学ぶ姿を参会される先生方に見ていただき

たいとおっしゃっていました。胸が熱くなりました。全生総研としても、心から応援をしたいと思います。

また、第1回全国理事会では恒例となりましたが、文部科学省初等中等教育局視学官の田村学先生には、「学習指導要領改訂の最新情報」と題してご講演をいただきました。改訂作業の真っ最中で、大変お忙しいのにもかかわらず、私たちのためにいつも都合をつけて駆け付けてくださる田村先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。

田村先生からは、ワーキンググループで提示された資料を基に、生活科に関しては、「生活科における見方・考え方」、「生活科のイメージ」、「資質・能力の三つの柱に沿った生活科において育成すべき資質・能力」、「生活科の学びのプロセスと育成すべき資質・能力の関係」、「生活科の評価」、そして、「資質・能力の3本柱、生活科の3つの視点と内容項目(9項目)の関係」について、会議ではどのような方向で話し合いが進んでいるのかをお話いただきました。また、総合に関しては、「総合的な学習の時間の「見方・考え方」、「総合的な学習の時間のイメージ」、「資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力の整理」、「探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係」、「総合的な学習の時間の評価の観点」についてご説明がありました。出席された理事の誰もが、これまで研究を重ねてきた生活科・総合的な学習の時間が、次期学習指導要領の核となることの自覚を深めたのではないのでしょうか。大変有意義な時間を過ごすことができました。

さらに、全国において、今秋、北海道ブロックの函館大会(10月21日)、関東ブロックの埼玉大会(10月28日)、近畿ブロックの和歌山大会(11月25日)、中国ブロックの山口大会(10月21日)を開催する予定です。是非、多くの皆様に大会に参加していただき、次期学習指導要領を見据えた取り組みも見られるでしょうから、研究成果を持ち帰り、それぞれの地区で積極的に発信し、生活・総合が各地で益々発展するように寄与していただきたいと思っております。